15 指-2 がん専門医療施設を活用した

がん診療の標準化に関する共同研究

主任研究者 国立がんセンター東病院 吉田 茂 昭

平成 12 年より登録を開始した JCOG9907(切除可能進行食道がんに対する術前対術後化学療法の二群比較) と、JCOG9912(切除不能胃がんに対する全身化学療法の三群比較) の 2 本の第 相試験は特段の問題なく症例を集積中である。また、前年に登録を開始した JCOG0110MF(切除可能進行胃がんに対して脾摘を行うか否かを無作為化して治療成績を比較する第 相試験) および JCOG0106MF(胃がん腹膜播種例に対して 5FU 単独投与群と 5FU+MTX 療法群とを比較する第 相試験) も順調に症例集積中である。症例登録が不良であった JCOG9502(食道浸潤胃がんに対する開胸対非開胸手術の第 相試験) は当初予定症例数の半数を超えた 167 例段階で中間解析を行った結果、開胸群の不良な予後が判明し早期中止が勧告された。第 相試験では切除可能進行胃がんに対する術前化学療法の 3 本の臨床試験(JCOG0001, 0002DI, 0210MF) が相次いで終了し、第 相試験への展開を図るべく現在結果を解析中である。なお、本年度の登録開始を目標として食道がんを対象とした新たな 2 本の第 相試験、胃がんのセンチネルリンパ節の有効性を検討する 1 本の第 相試験を準備中である。

研究者名	所属施設および職名	総括研究報告
吉田 茂 昭	国立がんセンター東病院 院長	がん専門医療施設を活用したがん診療の標準化に関する共同研究
田村 友 秀	国立がんセンター中央病院 部長	がん政策医療ネットワークにおけるデータ基盤の構築および効率的な情報通信手段の開発に関する研究
山城 勝 重	国立札幌病院 臨床検査科長	がん政策医療ネットワークにおけるデータ基盤の構築および効率的な情報通信手段の開発に関する研究
横 田 隆	国立仙台病院 医長	がん政策医療ネットワークにおけるデータ基盤の構築および効率的な情報通信手段の開発に関する研究
磯 部 陽	国立病院東京医療センター 医長	がん政策医療ネットワークにおけるデータ基盤の構築および効率的な情報通信手段の開発に関する研究
石川ガクミツ	国立がんセンターがん予防・健診研究センター 研究員	がん政策医療ネットワークにおけるデータ基盤の構築および効率的な情報通信手段の開発に関する研究
永井 宏 和	国立名古屋病院 部長	がん政策医療ネットワークにおけるデータ基盤の構築および効率的な情報通信手段の開発に関する研究
辻 仲 利 政	国立病院大阪医療センター 医長	がん政策医療ネットワークにおけるデータ基盤の構築および効率的な情報通信手段の開発に関する研究
谷 水 正 人	国立病院四国がんセンター 医長	がん政策医療ネットワークにおけるデータ基盤の構築および効率的な情報通信手段の開発に関する研究
牛尾 恭 輔	国立病院九州がんセンター 副院長	がん政策医療ネットワークにおけるデータ基盤の構築および効率的な情報通信手段の開発に関する研究

吉野正曠	国立がんセンター東病院 部長	がん政策医療ネットワークにおけるデータ基盤の構築および効率的な情報通信手段の開発に関する研究
森谷宜皓	国立がんセンター中央病院 部長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
齋藤典男	国立がんセンター東病院 部長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
岡村健	国立病院九州がんセンター 部長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
近藤建	国立名古屋病院 医長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
池田栄一	山形県立中央病院 副院長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
大植雅之	大阪府立成人病センター 参事	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
瀧井康公	新潟県立がんセンター 外科部長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
山田哲司	石川県立中央病院 副院長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
久保義郎	国立病院四国がんセンター 医員	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
斉藤大三	国立がんセンター中央病院 部長	早期消化管がんに対する内視鏡的治療法の開発と評価に関する研究
土井俊彦	国立がんセンター東病院 医長	早期消化管がんに対する内視鏡的治療法の開発と評価に関する研究
道田知樹	国立病院大阪医療センター	早期消化管がんに対する内視鏡的治療法の開発と評価に関する研究
高橋寛	癌研究附属病院 総合健診センター 所長	早期消化管がんに対する内視鏡的治療法の開発と評価に関する研究
門馬久美子	都立駒込病院 医長	早期消化管がんに対する内視鏡的治療法の開発と評価に関する研究
那須淳一郎	国立病院四国がんセンター 医員	早期消化管がんに対する内視鏡的治療法の開発と評価に関する研究
石川勉	栃木県立がんセンター 部長	早期消化管がんに対する内視鏡的治療法の開発と評価に関する研究
永原國彦	国立京都病院 手術部長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
林隆一	国立がんセンター東病院 医長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
西川邦男	国立病院四国がんセンター 医長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
富田吉信	国立病院九州がんセンター 医長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
吉野邦俊	大阪府立成人病センター 部長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究

長谷川泰久	愛知県がんセンター 部長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
西 條 茂	宮城県立がんセンター 副院長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
池 田 恢	国立がんセンター中央病院 部長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
西尾正道	国立札幌病院 医長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
荻 野 尚	国立がんセンター東病院 部長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
加賀美芳和	国立がんセンター中央病院 医長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
片岡正明	国立病院四国がんセンター 医長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
幡野和男	千葉県がんセンター 部長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
松本康男	新潟県立がんセンター 医長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
斉藤龍生	国立療養所西群馬病院 院長	がん患者における緩和医療(支持療法)の普及と評価に関する研究
志真泰夫	国立がんセンター東病院 医長*1 筑波メディカルセンター病院 部長*2	がん患者における緩和医療(支持療法)の普及と評価に関する研究
下山直人	国立がんセンター中央病院 医長	がん患者における緩和医療(支持療法)の普及と評価に関する研究
小原弘之	県立広島病院	がん患者における緩和医療(支持療法)の普及と評価に関する研究
内富庸介	国立がんセンター研究所支所 部長	がん患者における緩和医療(支持療法)の普及と評価に関する研究
田中桂子	静岡県立静岡がんセンター 副医長	がん患者における緩和医療(支持療法)の普及と評価に関する研究
本家好文	広島県立広島病院 センター長	がん患者における緩和医療(支持療法)の普及と評価に関する研究
新海哲	国立病院四国がんセンター 副院長	がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究
今岡真義	大阪立成人病センター 総長	がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究
山下幸紀	国立病院機構北海道がんセンター 副院長	がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究
山村義孝	愛知県がんセンター 部長	がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究
塚本直樹	国立病院機構九州がんセンター 院長	がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究
澤田俊夫	群馬県立がんセンター 院長	がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究

土屋了介 国立がんセンター中央病院 副院長
山中英壽 群馬大学大学院医学系研究科
名誉教授
二村雄次 名古屋大学大学院医学系 教授
土井隆一郎 京都大学 講師

がん専門医療施設における臨床教育体制の整備と
その評価法の開発に関する研究
局所進行前立腺がんに対する内分泌療法・放射線療法
併用の意義に関する研究
共通プラットフォームに基づいた膵がんの外科的療法の評価に
関する研究
共通プラットフォームによる膵癌治療の評価に関する研究

総括研究報告

1 研究目的

最近、わが国においても漸く Evidence based medicine (EBM)の重要性が広く認識されるようになったが、実際にはがん診療のほとんどの領域において自前の成績を持ち合わせていない。すなわち、わが国のがん診療成績は欧米先進国に比して同等あるいはそれ以上と信じられているが、その内容は個々の医療施設の小規模な成績の集合に過ぎず、欧米のように evidence となるべき標準的な治療成績が示せないでいるのである。本研究班は、わが国における代表的ながん専門医療施設からなる全国がん(成人病)センター協議会(全がん協)加盟施設(30施設)による「がんネットワーク」、および国立がんセンターの傘下に全国8ブロックに基幹施設を置き、この基幹施設に下に地域の各専門施設を配慮した「がん医療ネットワーク」(管轄:厚生労働省医政局国立病院課)などを駆使し、国内のがん専門医療施設における大規模な診療成績を集積して解析を加えるとともに、具体的な研究課題については小班を組織し大規模試験を展開しようとするものである。これにより、わが国におけるがん診療の標準化を実現するとともに、がん診療における質の保証を確保し、これを広く公開することでわが国のがん診療レベルの向上を計るとともに、政策提言などを通じて国民社会に貢献することを目的としている。なお、今年度より厚生労働省がん研究助成金計画研究班で行われた臨床試験のうち、既に症例登録終了となった課題については、当指定班に編入して経過を追跡し、最終的に確定された成績を今後の診療指針として広く公開することとなった。

2 研究成果

(1) がん政策医療ネットワークにおけるデータベースの構築および効率のよい情報通信手段の開発に関する研究

当小班は政策医療の一層の推進をはかるため、政策医療ネットワーク参加施設間の診療記録の共有化を図るとともに、得られるデータベースの有用性について評価を行おうとするものである。今年度は、がん政策医療ネットワーク基幹施設における手術データベース構築を目的として、前年度に9施設から収集した手術運用および記録管理に関する20項目のデータを解析し、その最終解析結果を明らかにした。手術記録の管理状況は施設により様々であるが、今回のデータからも手術の施設特性、手術室運用の違い等について問題点を把握できた。例えば、各臓器がんにおける手術時間は施設を問わずほぼ同様であったが、各施設における手術室の稼働状況には大きな差が見られ、国立がんセンターにおいても有効利用の点で課題が示された。

得られた差の多くは各施設における診療状況(人員配置、診療機能)の差に由来しているものと想定されたが、この様な多施設にわたる臨床データの収集と解析は、各施設がこれまで個別的あるいは習慣的に対応している診療業務の見直しを図る上でも一つの契機を与え得るという点で有用と判断された。また、手術データベース構築による診療の標準化・効率化の推進には手術記録の電子化と病名コード・術式名称の標準化など共通フォーマットの作成が不可欠である。なお、本年度中にがん化学療法の個票調査を行う予定であったが、事項整理に手間取り次年度に行うこととした。

(2) 大腸がんにおける診断、治療、フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究

当小班は、大腸がんに対する診断、治療、術後追跡検査の標準化を行うとともに、過剰診療を抑制し経済効率を高めることにより合理的な大腸癌診療体制を構築することを目的としている。今年度の研究成果は以下の通りである。

1) 術後に投与する抗生物質の適正な使用法の評

価：腸管の内容物が不潔であることから、これまで術後感染予防を目的とした抗生物質の連続投与は不可欠とされてきたが、各施設の遡及的検討により、その根拠は曖昧であることが判明した。そこで、抗生剤の「一回投与」群と「三回投与」群とで術後の感染症発生頻度に差が認められるか否かを明らかにするため、無作為化比較第3相試験を本年5月より開始した。目標症例数は1群あたり250例であるが、登録症例は平成17年2月現在既に333例(70%)を越えており、6月中には登録終了の見込みである。

2)低再発リスク(Dukes A, B)症例に対する術後長期観察間隔の標準化に関する検討：低再発リスク症例を術後より密な間隔で画像検査を行うintensive群とより緩やかな経過観察を行うconventional群に無作為に割り付けし、各群の累積生存率に差が認められるか否かを明らかにするための比較試験を平成15年9月より遂行中である。当該試験で予想される結果は、intensive群がconventional群と比べ有意に良好な生存率を示すか、変わらない(非劣性)かのどちらかである。もしも後者が証明された場合には、より経済効率が優れている点で標準的な経過観察システムであると結論し得る。検査間隔と術後の延命との関連性に言及し得る臨床試験はこれまで例がなく、行政側の経済的な負担をも評価項目に含めている点で、今後の新たな目安を提供し得るものと期待される。目標症例数はDukes A, B各400例で当初登録期間を3年間、経過観察期間を5年間としたが、登録症例数は平成16年9月段階で計178例に過ぎない。その要因として患者自身がintensiveな経過観察を望み、無作為化に対する理解が得られないことが挙げられる。参加施設の拡大等、試験計画の見直しに迫られている。

3)下部直腸がんに対する新治療法の開発：肛門管およびその近傍に存在する下部直腸のT1,T2がんでは、根治性を重視した人工肛門造設を伴う直腸切断術、あるいは機能温存を重視した肛門括約筋温存手術が標準的外科治療法とされている。現在、これらを補完する新たな治療法として局所切除+放射線化学療法の一臂前向き試験(one arm prospective study)(目標症例数55例)を開始した。平成16年12月までに参加施設のIRB承認が得られ、平成17年2月現在19例の登録が得られている。評価項目は無再発生存率、局所無再発生存率、有害事象頻度、局所再発のsalvage率などである。

(3)早期消化管がんに対する内視鏡的治療法の開発と評価に関する研究

当小班は、早期消化管がんに対する内視鏡的粘膜切除術(Endoscopic Mucosal Resection:EMR)の再評価と適応拡大を検討するとともに、大型の病変に対しても一括切除が可能な内視鏡的粘膜下剥離術(Endoscopic Submucosal Dissection:ESD)の改良開発と普及により、治療成績の一層の向上を図ろうとするものである。今年度は主として胃がんに対する内視鏡的治療の諸課題について検討を行い、以下の成績を得た。1)未分化型がんへの適応拡大については班員各施設の遠隔成績をfollow up中である。また、手術例、ESD例を対象に分化型・未分化型混在がんについて検討した結果、3cm以下の粘膜内がんでは混在型でもリンパ節転移は認めなかったが、混合型では粘膜下浸潤率、脈管侵襲率が高い傾向にあった。さらに生検組織診断上中分化腺がんと診断された症例については切除標本上では混合型である場合が少なくなく、臨床的取り扱いには注意が必要と考えられた。2)EMR・ESD施行1年以後の異時性多発胃がんの頻度は8-17%、また各年次別頻度は薬2.5-3%であり、定期的経過観察の重要性が示された。3)内視鏡的治療の経費は約5年間にわたる頻回な経過観察を含めても外科手術治療の1/2であるが、治療用処置具は高価であり、これらの全ては各施設の持ち出しとなっている。内視鏡治療が外科治療に代替し得る(手術例数を減少させる)という医療経済的貢献度と処置具や技術のコストを十分に勘案した適正な診療報酬の改定が望まれる。4)ESDでは切除に長時間を要する場合も少なくなく、患者の安全管理や苦痛改善を図るための全身麻酔の導入が求められているが、現状の麻酔科医の不足により対応が困難となっている。現状では麻酔管理上の課題を残しているが、Propofolを用いた鎮静法の有用性について探索的臨床試験を行った。15例段階の中間評価では、専任医師が必要であることや適宜鎮痛剤との併用が求められることなど、通常の鎮痛鎮静法に比して管理が複雑となるが、鎮静効果については肯定的な成績を得ている。

(4)頭頸部がん治療の標準化に関する研究

当班の目的は、頭頸部がん治療の標準化にあるが、その道標としての治療ガイドラインの完成をめざし、日本癌治療学会の臨床腫瘍データベースや、日本頭頸部癌学会にて作成しつつある診療ガイドラインとの整合性を検討している。今年度は口腔がんを最後に主要な頭頸部がんに対する治療ガイドライン作成作業をほぼ終了し、現在はその他のがん、治癒切除不能が

ん、高齢者のがんに関するにガイドライン作りに着手している。癌腫が多彩で症例数も多くない頭頸部がんにおいては、日本人におけるエビデンスはなくともコンセンサスの得られているものは採用するとか、臨床データのないものは専門家の推奨も採用するなど柔軟な対応が求められる。なお、今後は作成したガイドラインの妥当性を評価するための多施設共同研究（prospective study）を行い、標準的治療の一層の浸透を図る予定である。

(5) 固形がんに対する放射線治療の標準化に関する研究

当班は各臓器がんに対する放射線治療について、まず標準治療とは何かを論文検索（エビデンス・レベル）により検証し、次いでがん専門施設での実地医療においてその遂行状況を調査し、課題を克服することでわが国における標準化の実現を図ろうとするものである。今年度は全がん協加盟施設における実態調査に基づき、主として質的保証に関する問題点の所在と対策について検討を行った。

がん専門施設での放射線治療施行実績につき、全がん協加盟 30 施設のうち 28 施設から 2003 年のデータを集積し、同年の全国集計データ（日本放射線腫瘍学会データベース委員会集計）との対比を試みた。対象とした 28 施設はわが国における放射線治療設置施設数（726）の 3.8% を占めるに過ぎないが、年間新規治療患者数は 15,729 名と全国集計データ（149,793 名）の 10.5% を占めた。年間新規治療患者数の伸び率について 1999 年の集計成績を母数とすると、全がん協施設、全国集計ともに 1.40 倍に相当した。すなわち、最近の放射線治療患者数の増加は全国的な現象であり、このような状況に適切に対応することが急務と言えた。また、全がん協加盟施設 1 施設あたりの新患者数は平均 561.8 名で、全国平均の 206.3 名を大きく上回っていることから、全がん協加盟施設における放射線治療の質的保証と標準化の推進は全国的なレベルにおける質の向上に充分寄与し得ると考えられた。

なお、最近の新規治療患者数の急増は、根治的放射線（化学）療法の普及に因るものと思われるが、全がん協加盟施設における放射線腫瘍医総数は 79 名（平均 2.83 名/施設）、臨床放射線技師総数は 114 名（平均 4.07 名/施設）に過ぎず、1999 年と比べても増加傾向は認められていない。人的資源を含めた基盤整備が望まれるところである。

(6) がん患者における緩和医療（支持療法）の普及と

評価に関する研究

当班の目的は、がん患者のさまざまな肉体的・精神的・社会的な苦痛に対して、様々な医療施設で行われている緩和医療を、一般病棟でも広く行えるよう EBM に基づいて標準化しこれを普及させることにある。緩和医療の対象領域は年々拡大しており、がん患者における疼痛や呼吸困難の緩和や口腔衛生の保持といった支持療法ばかりではなく、適応障害や鬱状態、spiritual pain などの精神腫瘍学的領域、さらには在宅治療などの社会医学的領域などについてそれぞれ研究活動が展開されるようになった。また、コミュニケーションスキルなど患者との意思疎通を図る上で不可欠な診療技術の重要性も指摘されている。本班でもこれまで様々な領域について検討を試みてきたが、本年度は呼吸困難緩和ガイドライン、呼吸困難評価法の検討、呼吸困難・神経障害性疼痛緩和の無作為化比較試験、がん患者における適応障害・鬱病の早期スクリーニング・早期治療、在宅緩和医療の標準化について研究を展開中である。

(7) がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価の開発に関する研究

本班の目的は、がんネットワークおよびがん政策医療ネットワークにおける効率的かつ体系的な臨床腫瘍学の専門的卒後教育体制を整備し、それを実践するとともに評価し、がん専門診療施設における最適な診療教育体制を確立することにある。本年度の主な研究成果は以下の通りである。1) 米国における卒後臨床カリキュラム、腫瘍内科医（Medical Oncologist）の評価・審査・認定制度についての情報収集を行った。被我的差とその由来についてはなお検討を要するが、わが国でも受け入れ可能な部分は少なくなく、今後の参考に資すると思われた。2) 共通コアカリキュラムは、がん研究助成金 11-3 江口班が提案した教育プログラムを見直し、ASCO（American Society of Medical Oncology）と ESMO（European Society of Medical Oncology）が共同作成した Global Core Curriculum を参考として、各施設で実現可能な必要最小限の内容とすることとした。3) 研修内容の評価については、指導医のみならず研修医自身の自己評価をも可能とするために、共通カリキュラムを基本としたポートフォリオを用いたクリニカルパス的な評価ファイルを試作することとした。4) 現在、腫瘍内科医の研修獲得内容についてはわが国においても世界的水準が明らかにされつつあるが、腫瘍外科医、腫瘍放射線科医の場

合は国際標準が不明のままである。今後さらに情報収集に努めることとした。

(8) 計画研究班にて登録終了となった第 相試験の経過追跡に関する研究

今年度は登録終了した以下の臨床試験についてその後の経過が報告された。

1) 浸潤性膵頭部膵管がんに対する適正手術確立のための多施設共同研究(14-7: 共通プロトコールに基づいた膵がんの外科的療法の評価に関する研究)

本臨床試験では拡大リンパ節郭清を伴う手術群の方がリンパ節郭清を最小限にとどめた標準手術群よりも長期の術後生存期間が得られるとの仮説に基づいて、2000年3月より症例集積を行ってきたが、2003年4月に101例の中間解析で拡大手術群が標準手術群よりも有意に良好な予後を得る確率は低いとして症例集積が中止された(無効中止)。現在、まだ生存例も少なくとも5年生存率での差は確定されていないことから引き続き追跡中である。

2) 遠隔転移を伴わないステージ 膵がんに対する適正治療法確立のための多施設共同研究(14-8: 共通プロトコールによる膵がん治療の評価)

進行膵がんに対する治療方針は、国内外、あるいは外科医と内科医の間で治療方針の選択に合意が形成されているとは言い難い。本臨床試験では遠隔転移を伴わないステージ 膵がん症例に対して、2群リンパ節郭清を伴う切除術と5-FU 併用化学放射線療法のいずれの治療成績が優るか実証することを目的として開始した。85例の仮登録(42例が適格例として本登録)時点で中間解析が行われ、外科切除群の良好な成績により早期中止(有効中止)が勧告された。しかし、現在多くの症例が生存中であり、今後の状況によっては有意差が失われる可能性も残されており、引き続き経過を追跡中である。

3) 局所進行前立腺がんに対する内分泌療法・放射線療法併用の意義に関する研究(12-4)

上記研究班では局所進行前立腺がんの放射線治療終了後に、持続的内分泌療法(CAS)を行う群と間歇的内分泌療法(IAS)を行う群との無再発生存期間を無作為に比較する第 相試験を計画した。現在288例が登録済みで目標症例数は300例である。本臨床試験の作業仮説は以下の通りである。もしIASがCASに比して有意に無再発生存期間を落とさない(非劣勢)とすれば、IASが標準治療となり、患者QOLあるいは医療経済的な意義が高い。また、CASがIASに比し有

意に良好であれば、CASの標準的治療としての評価が追認できる。なお、いずれの仮説においても、再発ハザードに比例制が仮定できれば、ハザード比の区間推定を行うことで同時的な検討が可能となる。

3 倫理面への配慮

本研究における倫理面への配慮については、1)臨床試験の倫理性・安全性を高めることを重要課題と位置付け、インフォームド・コンセントを実践している。また、説明と同意の文書を一体化した説明・同意文書を使用し、患者本人からの自筆による同意を原則としている。多施設による臨床試験の場合は、倫理面に十分配慮したプロトコールを作成し参加する各施設の倫理審査委員会の承認を得た上で臨床試験を実施する。2)データベースの設計・構築にあたっては、匿名化等の仕組みを導入し個人の情報保護に万全を期す。本研究班では、個人が特定できないようプライバシーの保護を優先課題として取り組んでいる。

研究成果の刊行発表

外国語論文

1. Sano Y, Yoshida S, et al. A novel endoscopic device for retrieval of polyps resected from the colon and rectum. *Gastrointest Endosc* 2004;59(6):716-719.
2. Okuno T, Yoshida S, et al. Early colon cancers detected by FDG-pet: a report of two cases with immunohistochemical investigation. *Hepatogastroenterology* 2004;51(59):1323-1325.
3. Gono K, Yoshida S, et al. Appearance of enhanced tissue features in narrow-band endoscopic imaging. *J Biomed Opt* 2004;9(3):568-577.
4. Sano Y, Yoshida S, and the Japan Polyp Study Workgroup. A multicenter randomized controlled trial designed to evaluate follow-up surveillance strategies for colorectal cancer: the Japan Polyp Study. *Dig Endosc* 2004;16(4):376-378.
5. Fu KI, Yoshida S, et al. Chromoendoscopy using indigo-carmin dye-spraying with magnifying observation. Is the most reliable method for differential diagnosis between non-neoplastic and neoplastic colorectal lesions? A prospective study. *Endoscopy* 2004;36(12):1089-1093.
6. Machida H, Yoshida S, et al. Narrow band imaging for differential diagnosis of colorectal mucosal lesions: a pilot study. *Endoscopy* 2004;36(12):1094-1098.
7. Muto M, Yoshida S, et al. Squamous cell carcinoma in situ at oropharyngeal and hypopharyngeal mucosal sites. *Cancer* 2004;101(6):1375-1381.
8. Muto M, Ohtsu A, Yoshida S. Treatment strategies for esophageal stricture before or after chemoradiotherapy for advanced esophageal cancer. *Digestive Endoscopy* 2004;16:S5-S8.
9. Muto M, Yoshida S, et al. Hosokawa K. Saito D. Shim C.S. and Gossner L. Endoscopic mucosal resection in the stomach using the Insulated -Tip needle knife. *Endoscopy* 2005;37:178-182

10. Sano Y, Yoshida S, et al. Optical/digital chromoendoscopy during colonoscopy using narrow band imaging system. *Dig Endosc* (in press)
11. Fu KI, Yoshida S, et al. Hazards of endoscopic biopsy for flat adenoma before endoscopic mucosal resection: a case report. *Dig. Dis. Sci.* Hazards of endoscopic biopsy for flat adenoma before endoscopic mucosal resection: a case report. *Dig Dis Sci* (in press)
12. Muto M, Yoshida S, et al. Narrow Band Imaging; The Japanese Experience. *Clinical Gastroenterology and Hepatology* (in press)
13. Muto M, Yoshida S, et al. Risk of multiple squamous cell carcinomas both in the esophagus and the head and neck region. *Carcinogenesis* (in press)
14. Yano T, Yoshida S, et al. Distribution and Prevalence of Colorectal Hyperplastic Polyps Using Magnifying Pan-mucosal Chromoendoscopy and Its Relationship with Synchronous Colorectal Cancer: A Prospective Study. *J Gastro Hepatol* (in press)
15. Katada C, Yoshida S, et al. Local recurrence after endoscopic mucosal resection for esophageal squamous cell carcinoma. *Gastrointest Endosc* (in press).
16. Yoshida M, Yoshida S, et al. Long-term Survival and Prognostic Factors in Patients with Metastatic Gastric Cancer Treated with Chemotherapy in the Japan Clinical Oncology Group (JCOG) Study. *Jpn J Clin Oncol* 2004;34(11):654-659.
17. Tahara M, Yoshida S, et al. Expression of thymidylate synthase, thymidine phosphorylase, dihydropyrimidine dehydrogenase, E2F-1, Bak, Bcl-X, and Bcl-2, and clinical outcomes for gastric cancer patients treated with bolus 5-fluorouracil. *Oncology Report* 2004;11(1):9-15.
18. Yamao T, Yoshida S, et al. Phase II study of sequential methotrexate and 5-fluorouracil chemotherapy against peritoneal disseminated gastric cancer with malignant ascites: a report from the Gastrointestinal Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group, JCOG9603 trial. *Jpn J Clin Oncol* 2004;34(6):316-322.
19. Nagashima F, Yoshida S, et al. Japanese nation-wide post marketing survey of S-1 in patients with advanced gastric cancer. (in press)
20. Sekine, I., Tamura, T., et al., Phase I study of cisplatin analogue nedaplatin (254-S) and paclitaxel in patients with unresectable squamous cell carcinoma. *Br J Cancer*, 90(6): 1125-8, 2004.
21. Sekine, I., Tamura, T., et al., Treatment of small cell lung cancer in the elderly based on a critical literature review of clinical trials. *Cancer Treat Rev*, 30(4): 359-368, 2004.
23. Takano, T., Tamura, T., et al., Risk factors for tumor response in patients with advanced non-small cell lung cancer treated with gefitinib. *Lung Cancer*, 45(1): 93-104, 2004.
24. Sekine, I., Tamura, T., et al., Phase I study of cisplatin, vinorelbine, and concurrent thoracic radiotherapy for unresectable stage III non-small cell lung cancer. *Cancer Sci*, 95(8): 691-5, 2004.
25. Yamashiro K, Kawamura N, Matsubayashi S, Dota K, Suzuki H, Mizushima H, Wakao F, Azumi N. Telecytology in Hokkaido Island, Japan: results of telecytodiagnosis of routine cases. *Cytopathology* 15(4): 211-227, 2004.
26. Yokota T, et al. Lymph node metastasis as a significant prognostic factor in gastric cancer: A multiple logistic regression analysis. *Scand J Gastroenterol*, 39, 380-384
27. Yokota T, et al. Is Japan sufficiently prepared to deal with bioterrorism? *South Med J*, in press 2005.
28. Yokota T, et al. Malpractice and criminal responsibility in Japan. *Am J Emerg Med*, in press 2005.
29. Hirasaki S, Tanimizu M, et al Efficacy of Clinical Pathway for the Management of Mucosal Gastric Carcinoma Treated with Endoscopic Submucosal Dissection Using an Insulated-tip Diathermic Knife *Internal Medicine* 43(12), 1120-1125, 2004.
30. Hirasaki S, Tanimizu M, et al Seronegative Alpha-Fetoprotein-Producing Early Gastric Cancer Treated with Endoscopic Mucosal Resection and Additional Surgery. *Internal Medicine* 43(10) 926-930, 2004.
30. Hirasaki S, Tanimizu M, et al Gastritis Cystica Polyposa Concomitant with Gastric Inflammatory Fibroid Polyp Occurring in an Unoperated Stomach. *Internal Medicine* 44(1) 46-49, 2005.
32. Miyakura, Y., Moriya, Y., et al. Extensive but hemiallelic methylation of the hMLH1 promoter region in early-onset sporadic colon cancers with microsatellite instability. *Clin Gastroenterol Hepatol* 2: 147-156, 2004.
33. Kubota, K., Moriya, Y., et al. Clinical and pathological prognostic indicators with colorectal mucinous carcinomas. *Hepato-gastroenterology* 51: 142-146, 2004.
34. Yamamoto, S., Moriya, Y., et al A Comparison of the complication rates between laparoscopic colectomy and laparoscopic low anterior resection. *Surg Endosc* 18:1447-1451, 2004.
35. Moriya, Y., Yamamoto, S., et al Total pelvic exenteration with distal sacrectomy for fixed recurrent rectal cancer in the pelvis. *Dis Colon Rectum* 47:2047-2053, 2004.
36. K. Koda, N. Saito, et al. Evaluation of lateral lymph node dissection with preoperative chemo-radiotherapy for the treatment of advanced middle to lower rectal cancers. *Int J Colorectal Dis* 19:188-194, 2004.
37. N. Saito, et al. Early results of intersphincteric resection for patients with very low rectal cancer an active approach to avoid a permanent colostomy. *Dis Colon & Rectum* 47:459-466, 2004.
38. C. Kosugi, N. Saito, et al. Rectovaginal fistulas after rectal cancer surgery: incidence and surgical repair by gluteal-fold flap repair. *Surgery* (in press). 2004.
39. C. Kosugi, N. Saito, et al. Positron emission tomography for preoperative staging in patients with locally advanced or metastatic colorectal adenocarcinoma in lymph node metastasis: correlation with histopathologic characteristics of lymph node. *World Journal Surgery* (in Press). 2004.
40. Toshiro Nishida, Kuniaki Shirao, Kenji Yamao, Masato Koseki, Takeshi Okamura, Atsushi Ohtsu, and Tshiro Sugiyama Preliminary results of the Phase II clinical trial of Imatinib mesylate for advanced gastrointestinal stromal tumors in Japan. *Gastrointestinal Stromal Tumors(GIST): From Pathology to Molecular Target Therapy*. Gann Monograph on Cancer Research No. 53, 151-157 (學術雜誌) Japan Scientific Societies Press KARGER 2004.
41. Kuniaki Shirao, Atsushi Ohtsu, Hideho Takada, Yasushi Mitachi, Kosei Hirakawa, Noboru Horikoshi, Takeshi Okamura, Koichi Hirata, Soh Saitoh, Hiroharu Isomoto, Atsushi Satoh Phase II Study of Oral S-1 for Treatment of Metastatic Colorectal Carcinoma. *Cancer*, 100 :2355-2361, 2004.
42. Taira Kinoshita, Atsushi Nashimoto, Yoshitaka Yamamura, Takeshi Okamura, Mitsuru Sasako, Junichi Sakamoto, Hiroshi Kojima, Masahiro Hiratsuka, Kuniyoshi Arai, Motonori Sairenji, Norimasa Fukushima, Hironobu Kimura, Toshifusa Nakajima Feasibility study of adjuvant chemotherapy with S-1(TS-1; tegafur, gimeracil, oteracil potassium) for gastric cancer, 7:104-109, 2004.
43. Manabu Yamamoto, Hideo Baba, Yoshihiro Kakeji,

- Kazuya Endo, Yasuharu Ikeda, Yasushi Toh, Shunji Kohnoe, Takeshi Okamura, Yoshihiko Postoperative Morbidity/mortality and survival rates after total gastrectomy, with splenectomy/ Pancreaticosplenectomy for patients with advanced gastric cancer, 51: 298-302, Hepato-Gastroenterology 2004.
44. Yasushi Toh, Takefumi Ohga, Kazuya Endo, Eisuke Adachi, Hiroki Kusumoto, Masaru Haraguchi, Takeshi Okamura, Garth Nicolson Expression of the metastasis-associated MTA-1 protein and its relationship to deacetylation of the histon H4 in esophageal squamous cell carcinomas 110 Int. J. Cancer 362-367,2004.
 45. Yasushi Toh, Manabu Yamamoto, Kazuya Endo, Yasuharu Ikeda, Hideo Baba, Shunichi Kohnoe, Takeshi Okamura End-to-End anastomosis using a surgical instrument after a segmental resection of the distal duodenum 85 Journal of Surgical Oncology 88-90,2004.
 46. Manabu Yamamoto, Hideo Baba, Yoshihiro Kakeji, Kazuya Endo, Yasuharu Ikeda, Yasushi Toh, Shunji Kohnoe, Takeshi Okamura, Yoshihiko Maehara Prognostic significance of tumor markers in peritoneal lavage in advanced gastric cancer 67 Oncology 19-26,2004.
 47. Guang Yin, Suminori Kono, Kengo Toyomura, Tomoko Hagiwara, Jun Nagano, Tetsuya Mizoue, Ryuichi Mibu, Masao Tanaka, Yoshihiro Kakeji, Yoshihiko Maehara, Takeshi Okamura, Koji Ikejiri, Kitaroh Futami, Yohichi Yasunami, Takafumi Maekawa, Kenji Takenaka, Hitoshi Ichimiya and Nobutoshi Imaizumi Methyltetrahydrofolate Reductase C677T and A1298C polymorphisms and colorectal cancer: The Fukuoka Colorectal Cancer Study 95 Cancer Science 908-913,2004.
 48. R Yamasaki, D Saito, et al Immune response in Helicobacter pylori-induced low-grade gastric-mucosa-associated lymphoid tissue(MALT) lymphoma, Journal of Medical Microbiology, 53:21-29,2004.
 49. Matsuda T, Saito D, et al., Complete closure of a large defect after EMR of a lateral spreading colorectal tumor when using a two-channel colonoscope. Gastrointest Endosc 60:836-38, 2004.
 50. Saito Y, Saito D, et al. Letter to the editor: Invasive pattern is an indication for surgical treatment. Gut on line., 2004.
 51. Oda I, Saito D, et al. Endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer: Technical feasibility, operation time and complications from a large consecutive series. Digestive Endoscopy, 17:54-58, 2005.
 52. Tnioka R., Michida T., et al Eosinophilic gastritis showing nodular lesions in the gastric antrum and duodenal bulb-Report of a case Digestive Endoscopy ,16;253-256,2004.
 53. Hisoki T. , Michoda T. , et al Visualization of Pancreaticobiliary Reflex in Anomalous Pancreaticobiliary Junction by Secretin-Stimulated Dynamic Magnetic Resonance Cholangiopancreatography Acta Radiologica 45;375-382,2004.
 54. Hirasaki S, Nasu J Gastritis Cystica Polyposa Concomitant with Gastric Inflammatory Fibroid Polyp Occurring in an Unoperated Stomach. Intern Med 44(1): 46-49,2005.
 55. Sang-Chul Lim, R. Hayashi, et al. Predictive Markers for Late Cervical Metastasis in Stage and Invasive Squamous Cell Carcinoma of the Oral Tongue, Clinical Cancer Research, 10:166-172,2004.
 56. Hirano S Prevention of Vocal Fold Scarring by Topical Injection of Hep atocyte Growth Factor in Rabbit Model. Laryngoscope 114:548-56.2004.
 57. Hirano S Growth Factor Therapy for Vocal Fold Scarring in Canine Model. Ann Otol Rhinol Laryngol 113:777-85.2004.
 58. Hirano S Therapeutic Potential of Growth Factors for Aging Voice. Laryngoscope 114:2161-2167.2004.
 59. Thibeault SL, Hirano S Hyaluronan levels in acute vocal fold scar. Laryngoscope 114:760-4.2004.
 60. Rousseau B, Hirano S Characterization of Chronic Vocal Fold Scarring in a Rabbit Model. J Voice 18:116-24.2004.
 61. Tateda, M., Shiga, K., Yoshida, H, Saijo, S., Yokoyama, J., Ni shikawa, H .Matsuura K., Kobayashi, T. Management of the Patients with Hypopharyngeal Cancer Eight-Year Experience of Miyagi Cancer Center in Japan Tohoku J. Exp. Med., 205.65-77.2005
 62. Shiga, K., Matsuura, K., Tateda, M., Saijo, S Ogawa, T., Miyagi, T., Kobayashi, T. Allelic Loss Correlated with Tissue Specificity in Head and Neck Squamous Cell Carcinomas and the Clinical Features of Patients. Tohoku J. Exp. Med, 204, 163-172, 2004
 63. Kawashima, M., Fuwa, N., Myoujin, M, Nakamura, K., Toiya, T., Saijo, S., Hayashi, N , Ohnishi , H , Shikama , N , Kano , M , Yamato, M A Multi-institutional Survey of the Effectiveness of Chemotherapy Combined with Radiotherapy for Patients with Nasopharyngeal Carcinoma Jpn J Clin Oncol ,34(10)569-583 ,2004.
 64. Tomizawa Y, Iijima H, Saito R, et al Clinicopathological significance of aberrant methylation of RAR 2 at 3p24, RASSF1A at 3p21.3, and FHIT at 3p14.2 in patients with non-small cell lung cancer Lung Cancer, 46:350-312, 2004.
 65. Akechi T, Shima Y, et al Suicidality in terminally ill Japanese patients with cancer. Cancer 2004; 100(1):183-191.
 66. Morita T, Shima Y, et al Desire for death and requests to hasten death of Japanese terminally ill cancer patients receiving specialized inpatient Palliative care. J Pain Symptom Manage. 2004; 27(1):44-52
 67. Morita T, Shima Y, et al Emotional burden of nurses in palliative sedation therapy. Palliat Med. 2004;18(6):550-557.
 68. Morita T, Shima Y, et al Communication about the ending of anticancer treatment and transition to palliative care. Ann Oncol. 2004;15(10):1551-1557.
 69. Morita T, Shima Y, et al Measuring the quality of structure and process in end-of-life care from bereaved family perspective. J Pain Symptom Manage. 2004;27(6):492-501
 70. Morita T, Shima Y, et al Incidence and underlying etiologies of bronchial secretion in terminally cancer patients: a multicenter, prospective observational study. J Pain Symptom Manage. 2004;27(6):533-539.
 71. Morita T, Shima Y, et al Family-perceived distress about appetite loss and bronchial secretion in terminal phase. J Pain Symptom Manage. 2004;27(2):98-99.
 72. Morita T, Shima Y, et al Family-perceived distress from delirium-related symptoms of terminally ill cancer patients. Psychosomatics. 2004;45(2):107-113
 73. Akechi T, Shima Y, et al Major depression, adjustment disorders, and post-traumatic stress disorder in terminally ill cancer patients: associated and predictive factors. J Clin Oncol. 2004;22(10):1957-1965.
 74. Kohara H, et al. Combined modality treatment consisting

- of aromatherapy, footsoak and reflexology relieves fatigue in cancer patients. *J Palliat Med*7;791-796,2004.
75. Morita T, Honke Y, Kohara H, Uchitomi Y. et al. Existential concerns of terminally ill cancer patients receiving specialized palliative care in Japan. *Support Care Cancer*12;137-140,2004.
 76. Morita T, Honke Y, Kohara H, Uchitomi Y. et al. Family experience with palliative sedation therapy for terminally ill cancer patients. *J Pain Symptom Manage*28;557-565,2004.
 77. Morita T, Kohara H, Shima Y, Uchitomi Y. et al. Communication about the ending of anticancer treatment and transition to palliative care. *Ann Oncol*15;1551-1557,2004.
 78. Morita T, Honke Y, Kohara H, Uchitomi Y. et al. Concerns of family members of patients receiving palliative sedation therapy. *Support Care Cancer*12;885-889,2004.
 79. Kohara H, et al. Sedation for terminally ill cancer patients with uncontrollable physical distress. *J Palliat Med*8;20-25,2005.
 80. Morita T, Kohara H, Shima Y, Uchitomi Y. et al. Late referrals to specialized palliative care service in Japan. *J Clin Oncol*(in press)
 81. Akechi T, Shima Y, Uchitomi Y, et al Suicidality in terminally ill Japanese patients with cancer; prevalence, patient perceptions, contributing factors, and longitudinal changes. *Cancer* 100:183-191, 2004.
 82. Akechi T, Shima Y, Uchitomi Y, et al Major depression adjustment disorders, and post-traumatic stress disorder in terminally ill cancer patients; associated and predictive factors. *J Clin Oncol* 22:1957-1965,2004.
 83. Akechi T, Uchitomi Y, et al Post traumatic symptoms experienced by a nurse after a patient suicide. *Jpn J Gen Hosp Psychiatry* 16:49-54,2004.
 84. Inagaki M, Uchitomi Y, et al Hippocampal volume and first major depressive episode after cancer diagnosis in breast cancer survivors. *Am J Psychiatry* 161:2263-2270,2004.
 85. Morita T, Kohara H, Shima Y, Uchitomi Y, et al Communication about the ending of anticancer treatment and transition to palliative care. *Ann Oncol* 15:1551-1557,2004.
 86. Morita T, Honke Y, Kohara H, Uchitomi Y, et al Concerns of family members of patients receiving palliative sedation therapy. *Support Care Cancer* 12:885-889,2004.
 87. Morita T, Honke Y, Kohara H, Uchitomi Y, et al Existential concerns of terminally ill cancer patients receiving specialized palliative care in Japan. *Support Care Cancer* 12:137-140,2004.
 88. Morita T, Honke Y, Kohara H, Uchitomi Y, et al Family experience with palliative sedation therapy for terminally ill cancer patients. *J Pain Symptom Manage* 28:557-565,2004.
 89. Murakami Y, Uchitomi Y, et al Psychological distress after disclosure of genetic test results regarding hereditary nonpolyposis colorectal carcinoma; a preliminary report. *Cancer* 101:395-403,2004.
 90. Okuyama T, Hosaka T, Uchitomi Y, et al Adequacy of cancer pain management in a Japanese cancer hospital. *Jpn J Clin Oncol* 34:37-42,2004.
 91. Suzuki S, Uchitomi Y, et al Daily omega-3 fatty acid intake and depression in Japanese patients with newly diagnosed lung cancer. *Br J Cancer* 90:787-793,2004.
 92. Akizuki N, Yamawaki S, Uchitomi Y, et al Symptom Manage 29:91-99 Development of an Impact Thermometer for use in combination with the Distress Thermometer as a brief screening tool for adjustment disorders and/or major depression in cancer patients. *J Pain* 2005.
 93. Fujimori M, Uchitomi Y, et al Good communication with patients receiving bad news about cancer in Japan. *Psycho-Oncology*, in press
 94. Matsuoka Y, Uchitomi Y, et al Biomedical and psychosocial determinants of posttraumatic intrusive recollections in breast cancer survivors. *Psychosomatics*, in press
 95. Morita T, Kohara H, Shima Y, Uchitomi Y, et al Late referrals to specialized palliative care service in Japan. *J Clin Oncol*, in press
 96. Nakaya N, Uchitomi Y, et al Twenty-four-hour urinary cortisol levels before complete resection of non-small cell lung cancer and survival. *Acta Oncol*, in press
 97. Shimizu K, Uchitomi Y, et al Usefulness of the nurse-assisted screening and psychiatric referral. *Cancer*, in press
 98. Sugawara Y, Hosaka T, Uchitomi Y, et al Occurrence of fatigue and associated factors in disease-free breast cancer patients without depression. *Support Care Cancer*, in press
 99. Tanisada K, Honke Y, et al: Patterns of care study quantitative evaluation of quality of radiotherapy in Japan. *Cancer*:95 164-174,2002
 101. Morita T, Honke Y et al : Existential concerns of terminally ill cancer patients receiving specialized palliative care in Japan *Supportive Cancer Care*:12 137-140,2004
 101. Morita T, Honke Y et al : Concerns of family members of patients receiving sedation therapy *Supportive Cancer Care*:12 885-889,2004
 102. Morita T, Honke Y et al : Family Experience with palliative sedation therapy for terminally ill cancer patients *J Pain and Symptom Management*: 28(6) 557-565,2004
 103. Goto, K., Shinkai, T., et al. Multi-institutional phase II trial of irinotecan, cisplatin, and etoposide for sensitive relapsed small-cell lung cancer. *Br. J. Cancer*, 91: 659-665, 2004.
 104. Takigawa, N., Shinkai, T., et al. Clinical and pharmacokinetic study of docetaxel in elderly non-small-cell lung cancer patients. *Cancer Chemother. Pharmacol.*, 54: 230-236, 2004.
 105. Yamamoto, S., Imaoka, S., et al : Expression of Valosin-Containing Protein in Colorectal Carcinomas as a Predictor For Disease Recurrence and Prognosis *Clinical Cancer Research* ; 10 : 651-657, 2004
 106. Ohigashi, H., Imaoka, S., et al : Early Ligation of the Inferior Pancreaticoduodenal Artery to Reduce Blood Loss During Pancreaticoduodenectomy *Hepato-Gastroenterology* ; 51 : 4-5, 2004
 107. Ishikawa, O., Imaoka, S., et al : Long-term follow-up of glucose tolerance function after pancreaticoduodenectomy : Comparison between pancreaticogastrostomy and pancreaticojejunostomy *Surgery* ; 136 : 617-23,2004
 108. Akita, H., Imaoka, S., et al : Total Removal of Posterior Mediastinal Gastric Conduit Due to Gastric Cancer After Esophagectomy *Journal of Surgical Oncology* ; 85 : 204-208, 2004
 109. Fujito, T., Imaoka, S., et al : Prognostic Significance of -catenin Nuclear Expression in Hepatocellular Carcinoma *Hepato-Gastroenterology* ; 51 : 921-924, 2004
 110. Murata, K., Imaoka, S., et al : Attachment of Human Colon Cancer Cells to Vascular Endothelium Is Enhanced by

- N-Acetylglucosaminyltransferase V
Oncology ; 66 : 492-501, 2004
111. Sagae, S., Yamashita, K., et al. Preoperative Diagnosis and Treatment Results in 106 Patients with Uterine Sarcoma in Hokkaido, Japan. *Oncology*. 67:33-39, 2004.
 112. T. Kinoshita, Y. Yamamura Feasibility study of adjuvant chemotherapy with S-1 (TS-1 ; tegafur, gimeracil, oteracil potassium) for gastric cancer. *Gastric Cancer* 7:104-109, 2004
 113. T. Sano, Y. Yamamura Gastric cancer surgery : morbidity and mortality results from a prospective randomized controlled trial comparing D2 and extended para-aortic lymphadenectomy. *Japan Clinical Oncology Group Study 9501. J Clin Oncol* 22:2767-2773, 2004
 114. K. Okubo, Y. Yamamura Endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration biopsy for the diagnosis of gastrointestinal stromal tumors in the stomach. *J Gastroenterol* 39:747-753, 2004
 115. Y. Mochizuki, Y. Yamamura Treatment and risk factors for recurrence after curative resection of gastrointestinal stromal tumors of the stomach. *World J. Surg.* 28:870-875, 2004.
 116. S. Miura, Y. Yamamura Laparoscopy-assisted distal gastrectomy with systemic lymph node dissection : A critical reappraisal from the viewpoint of lymph node retrieval. *J Am Coll Surg* 198:933-938, 2004
 117. Y. Kodera, Y. Yamamura Obesity and outcome of distal gastrectomy with D2 lymphadenectomy for carcinoma. *Hepato-Gastroenterology*. 51:1225-1228, 2004.
 118. Kyo K, et al. Case report; Rectal cancer associated with chronic lymphocytic leukemia. *J Gastroenterol* 39:479-483, 2004.
 119. Iida M, et al Alteration of the AT motif binding factor-1 expression in α -fetoprotein producing gastric cancer: Is it an event for differentiation and proliferation of the tumor? *Oncology Reports* 11:3-7, 2004.
 120. Suzuki, K., Tsuchiya, R., et al. Combined Resection of Superior Vena Cava for Lung Cancer: Prognostic Significance of Patterns of Superior Vena Cava Invasion. *Ann Thorac Surg*, 78:1184-1189, 2004.
 121. Watanabe, S., Tsuchiya, R., et al. Recent Results of Postoperative Mortality for Surgical Resections in Lung Cancer. *Ann Thorac Surg*, 78: 999-1003, 2004.
 122. Yamanaka, H., et al Effectiveness of adjuvant intermittent endocrine therapy following neoadjuvant endocrine therapy and external beam radiation therapy in men with locally advanced prostate cancer. *Prostate*, 63: 56-64, 2005.
 123. Ito, K., Yamanaka, H., et al. Prostate carcinoma detection and increased prostate-specific antigen levels after 4 years in Dutch and Japanese males who had no evidence of disease at initial screening. *Cancer*, 103: 242-250, 2005.
 124. Akimoto, T., Yamanaka, H., et al. External beam radiotherapy for clinically node-negative, localized hormone-refractory prostate cancer: impact of pretreatment PSA value on radiotherapeutic outcomes. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 59:372-379, 2004.
 125. Akaza, H., Yamanaka, H., et al. Characteristics of patients with prostate cancer who have initially been treated by hormone therapy in Japan: J-CaP surveillance. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 34:329-336, 2004.
 126. Ito, K., Yamanaka, H., et al. Cumulative probability of PSA increase above 4.0 ng/ml in population based screening for prostate cancer. *Int. J. Cancer*, 109:455-460, 2004.
 127. Ito, K., Yamanaka, H., et al. The risk of rapid prostate specific antigen increase in men with baseline prostate specific antigen 2.0 ng/ml or less. *J. Urol.* 171:656-660, 2004.
 128. Ohi, M., Yamanaka, H., et al. Diagnostic significance of PSA density adjusted by transition zone volume in males with PSA levels between 2 and 4 ng/ml. *Eur. Urol.* 45:92-97, 2004.
 129. Shibata, Y., Yamanaka, H., et al. Direct regulation of prostate blood flow by vascular endothelial growth factor and its participation in the androgenic regulation of prostate blood flow in vivo. *Endocrinology*, 145:4507-4512
 130. Shibata, Y., Yamanaka, H., et al. Dramatic remission of hormone refractory prostate cancer achieved with extract of the mushroom, *Phellinus linteus*. *Urol. Int.* 73:188-190, 2004.
 131. Masuda, H., Yamanaka, H., et al. Expression of bone morphogenetic protein-7 (BMP-7) in human prostate. *Prostate*, 59:101-106, 2004.
 132. Mori, T., Doi, R. CXCR4 antagonist inhibits stromal cell-derived factor 1-induced migration and invasion of human pancreatic cancer. *Mol Cancer Ther* 3(1): 29-37, 2004.
 133. Masui, T., Doi, R. Metastin and its variant forms suppress migration of pancreatic cancer cells. *Biochem Biophys Res Commun* 315(1): 85-92, 2004.
 134. Hosotani, R., Doi, R. Expression of pancreatic duodenal homeobox-1 in pancreatic islet neogenesis after surgical wrapping in rats. *Surgery* 135(3):297-306, 2004.
 135. Imamura, M., Doi, R. Treatment for locally advanced pancreatic cancer. Should we resect it when resectable? *Pancreas* 28(3):293-295, 2004.
 136. Doi, R. Pancreatic endocrine tumor in Japan. *Pancreas* 28(3):247-252, 2004.
 137. Doi, R. Effects of preceding gastrectomy on the outcome of pancreatoduodenectomy. *J. Gastrointest. Surg.* 8(5): 575-579, 2004.
 138. Koizumi, M., Doi, R. Conditional transformation of mouse pancreatic epithelial cells: An in vitro model for analysis of genetic events in pancreatic carcinogenesis. *Biochem Biophys Res Commun* 319(2): 612-621, 2004.
 139. Nakajima, S., Doi, R. N-cadherin expression and epithelial-mesenchymal transition in pancreatic carcinoma. *Clin Cancer Res.* 10(12): 4125-4133, 2004.
 140. Onoue, M., Doi, R. Surgical resection deteriorates gemcitabine-induced leukopenia in pancreatic cancer. *Int. J. Clin. Oncol.* 9(3): 174-178, 2004.
 141. Kami, K., Doi, R. Survivin expression is a prognostic marker in pancreatic cancer patients. *Surgery* 136(2): 347-352, 2004.
 142. Koizumi, M., Doi, R. Hepatic regeneration and enforced PDX-1 expression accelerate transdifferentiation in liver. *Surgery* 136(2): 353-361, 2004.
 143. Ito, D., Doi, R. Chronic exposure of Transforming growth factor-beta 1 confers a more aggressive tumor phenotype through downregulation of p21^{WAF1/CIP1} in conditionally immortalized pancreatic epithelial cells. *Surgery* 136(2): 265-275, 2004.
 144. Imamura, M., Doi, R. A randomized multicenter trial comparing resection and radiochemotherapy for resectable locally invasive pancreatic cancer. *Surgery* 136(5): 1004-1012, 2004.
- 日本語論文
1. 川村 直樹, 吉田由香里, 酒井 一博, 山城 勝重, 松林 聡, 土田貴美子, 藤岡 学, 小田由紀子, 佐藤ひろみ, 広瀬 徹, 今泉 晃広 インターネットを利用した遠隔細胞診の診断成績と課題 *日本臨床細胞学会雑誌* 43(22):

- 205-213, 2004.
2. 横田、他 穿孔性腹膜炎をきたした小腸悪性リンパ腫: 自験2例と本邦81例の臨床病理学的検討医療、印刷中
 3. 渡辺、横田 肝膿瘍を合併したS状結腸癌医療、印刷中
 4. 和田則仁、磯部陽 Internet protocolによる遠隔医療のための暗号化の強度と速度の検討. 日外会誌. 105(3): 262,2004.
 5. 和田則仁、磯部陽 遠隔手術. G. I. Research, 12(3): 230-234,2004.
 6. 永井宏和 Rituximabによる有害反応と輸注時の注意点血液・腫瘍科・特別増刊号「悪性リンパ腫のすべて」49(suppl.4):405-409,2004.
 7. 永井宏和 リスク因子と予後 代理指標から特異的指標へ 最新医学, 59:27-33,2004.
 8. 永井宏和 リツキサンの急性毒性 血液・腫瘍科, 49: 515-519 2004 (単行本)
 9. 永井宏和他 病気の広がり(病期分類):インフォームドコンセントのための図説シリーズ「悪性リンパ腫」堀田知光(編)医薬ジャーナル社 2004.
 10. 舛本俊一 谷水正人 他 肝癌のターミナルケア 治療 86 105-110,2004
 11. 那須淳一郎 谷水正人 他 家族歴調査のシステム化による家族性腫瘍相談室の運営 家族性腫瘍 5(1) 57-60,2005.
 12. 牛尾恭輔、和田進、他. 消化管のまれな粘膜下腫瘍および粘膜下腫瘍様病変の診断、胃と腸、39:663-677,2004.
 13. 牛尾恭輔、和田進、他. 大腸癌に対する画像診断のすすめ方と今後の展望、臨床と研究、81:6-11,2004.
 14. 山本聖一郎., 森谷亘皓., et al 大腸癌の外科手術、臨床と研究、81:1404-1407,2004.
 15. 藤田伸、森谷亘皓 はじめての消化器外科手術 S状結腸切除術、手術、58:899-904,2004.
 16. 藤田伸、森谷亘皓., et al. 直腸癌側方郭清に意義はあるか - 意義ありとする立場から Frontiers in Gastroenterology, 9: 120-127,2004.
 17. 山本聖一郎, 森谷亘皓., et al. 直腸癌に対する自律神経温存手術、手術 58:1819-1825, 2004.
 18. 森谷亘皓., et al. Fixed Recurrent Tumor に対する仙骨合併骨盤内臓全摘術、臨床外科 59: 1571-1576,2004.
 19. 小島誉也、齋藤典男、他内視鏡的粘膜切除術の適応拡大 内視鏡的粘膜切除術の適応拡大 大腸、Graphic Medical Magazine Mebio Vol.21 4:84-90,2004.
 20. 齋藤典男、他、超低位直腸進行癌における肛門温存機能の試み、大腸癌・炎症性腸疾患 - 専門医から学ぶ最新治療 - 東京((株)メディカルビュー):94-107,2004.
 21. 齋藤典男、他、骨盤外科の発展に向けて、京都府立医科大学雑誌 113(10):683-691,2004.
 22. 伊藤雅昭、齋藤典男、他肛門近傍の超低位直腸癌に対する括約筋部分温存術 - 内肛門括約筋切除術(ISR)における手術手技 - 、手術(金原出版) 58(11):1827-1834,2004.
 23. 岩下生久子、牛尾恭輔、岩下明德、植山敏彦、平賀聖久、村中 光、宇都宮 尚、上田真信、水口昌伸、宮川国久、下田忠和、井野彰浩、下田悠一郎、西山憲一、今村健三郎、岡村健、村上純滋、一瀬幸人、渡辺秀幸消化管への転移性腫瘍の診断。胃と腸 第39巻 第4号 647-662,2004.
 24. 近藤建 有害反応軽減と薬物低用量投与法 日本臨床 第61巻 第6号 1015-1020,2003.
 25. 下山理史、近藤建 大腸癌の診断と治療-進行再発大腸癌と5-FU/LV療法 日本臨床 第61巻 第7号 2000-2003, 2004.
 27. 山田哲司 大腸がん治療の正しい知識 橋本確文堂 177-182,2004.
 26. 石崎雅浩、久保義郎、他術前にCTにて 診断しえた横行結腸脂肪腫による大腸重積症の1例. 外科, 65(5)文光堂;611-614,2003.
 27. 棚田 稔、久保義郎、他大腸癌肝転移切除後長期生存例の検討. 癌と化学療法, 31(11)文光堂; 1659-1661,2004.
 28. 沖田理貴、久保義郎、他小腸造影検査直後に腹腔内出血による出血性ショックを呈した小腸GISTの1例. 消化器外科, 27(11)文光堂;1743-1747,2004
 29. 那須淳一郎、久保義郎、他家族歴調査のシステム化による家族性腫瘍相談室の運営. 家族性腫瘍, 5(1)文光堂;57-60,2004.
 30. 松田尚久、斉藤大三、他、10mm以上の表面陥凹型腫瘍、[形態学的特徴(1)内視鏡的特徴 a.通常内視鏡診断のポイントと臨床病理学的特徴像、早期大腸癌、8:181-188、2004
 31. 斉藤大三、消化管がん(食道がん・胃がん・大腸がん)の内視鏡的治療、診療と新薬、41:49-70、2004
 32. 濱中久尚、斉藤大三、他、EMRの適応と治療成績、癌の臨床、50:335-338、2004
 33. 江口貴子、斉藤大三、他、早期胃癌に対する内視鏡的一括切除の必要性、Gastroenterological Endoscopy、46:1382-1387,2004.
 34. 濱中久尚、斉藤大三、他、早期胃癌に対する切開・剥離法の治療成績と問題点 - IT ナイフ - 、胃と腸、39:27-34,2004.
 35. 池松朗朗、斉藤大三、他、IT ナイフを用いた内視鏡的粘膜下層剥離術(Endoscopic Submucosal Dissection:ESD)時の内視鏡操作 - 針状メスと先端アタッチメントの併用を含めて - 、癌の臨床、50:713-722,2004.
 36. 濱中久尚、斉藤大三、他、偶発症対策、癌と臨床、50:501-505,2004.
 37. 濱中久尚、斉藤大三、他、胃・十二指腸内視鏡治療時の穿孔 - クリップ縫縮術、手術、58:1409-1414,2004.
 38. 後藤田卓志、斉藤大三、他早期 Barrett 食道癌の内視鏡的特徴像についての検討、胃と腸、39:1251-1258,2004.
 39. 斉藤大三、他、胃癌 - IT ナイフの使用も含めて、医学と薬学、53(1):13-19,2005.
 40. 江口貴子、斉藤大三、他、Annual Review 消化器:新しい内視鏡的粘膜切除(IT ナイフを中心に)、戸田剛太郎、税所宏光、寺野彰、幕内雅敏(編)、中外医学社、東京、2005
 41. 道田知樹、他 内視鏡ITナイフ。消化器 Naw 第25号 p 7、2004.
 42. 道田知樹、他 体上後壁に注意。消化器内視鏡 16(6):905,2004.
 43. 道田知樹、他 色に頼りすぎることなかれ。消化器内視鏡 16(6):863,2004.
 44. 道田知樹、他 見落としがちな血管病変 消化器内視鏡 16(6):903,2004.
 45. 岡本理恵子、道田知樹、他 黄疸を繰り返し、ステロイド治療が著効した自己免疫性膵炎の一例 Endoscopic Forum for digestive disease 20(1):51-56,2004.
 46. 武田裕、道田知樹、他 膵管胆道合流異常に対して分流手術を施行後発生した膵癌の2例 手術 58(7):1207-1211,2004.
 47. 海老原敏、道田知樹、他 がん専門医療施設を活用したがん診療の標準化に関する共同研究。平成15年度厚生省がん研究助成金による研究報告集 584-594,2004.
 48. 細木拓野、道田知樹、他 dynamic MRCPによる膵液

- 胆管逆流の描出 臨床放射線 49(7):892-897,2004.
- 49.高橋寛 粘膜切除法 胃 食塩水注入法;消化器内視鏡治療の基本手技(藤田力也編)58-69,金原出版株式会社2004.
- 50.那須淳一郎 家族歴調査のシステム化による家族性腫瘍相談室の運営 家族性腫瘍 5(1): 57-60,2005.
- 51.飯沼 元,石川 勉 注腸X線検査と大腸癌の深達度、大腸・肛門外科の要点と盲点 第2版,文光堂、34-41,2004.
- 52.石川 勉,他大腸癌:診断の基本は肉眼形態の分離から Medical ASAHI 4: 文光堂 64-68,2004.
- 53.松隈 治久,石川 勉,他大量喀血をきたした成人の先天性食道気管支瘻の1例、胸部外科(57) 文光堂 1241-1244,2004.
16(6):905,2004.
- 54.永原國彦,平野 滋:頸部外科のための縦隔の臨床解剖<縦隔・気管・食道編:縦隔手術>「イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科」,(下巻 咽喉頭・頸部編)、東京医学社、印刷中
- 55.永原國彦,平野 滋:甲状腺癌手術 - 縦隔郭清の実際<縦隔・気管・食道編:縦隔手術>「イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科」,(下巻 咽喉頭・頸部編)、東京医学社、印刷中
- 56.永原國彦,高北晋一:甲状腺癌における切除範囲、「イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科」,(下巻 咽喉頭・頸部編)、東京医学社、印刷中
- 57.永原國彦:甲状腺未分化癌、日本耳鼻咽喉科学会専門医通信、78:10-20,2004.
- 58.永原國彦,北村守正:進行甲状腺癌の周術期管理、内分泌外科 20:359-369,2004.
- 59.永原國彦,森谷季吉:甲状腺癌、JOHNS, 20:1429-1432,2004.
- 60.森谷季吉,永原國彦:喉頭に浸潤した甲状腺分化癌、内分泌外科 20:220-223,2003.
- 61.山崎光男,林 隆一,他頸部郭清術の範囲 喉頭癌の場合、JOHNS, 20(9):1420-1421,2004.
- 62.櫻庭 実,林 隆一,他特集 下咽頭・頸部食道の再建喉頭温存手術における下咽頭再建、形成外科、47(11):1227-1223,2004.
- 63.松浦一登,林 隆一,他当科で経験した下眼瞼悪性腫瘍2症例 malar flapと硬口蓋粘骨膜を用いた眼瞼再建、頭頸部外科、14(2):197-201,2004.
- 64.木股敬裕,林 隆一,他【総説】国立がんセンターにおけるチーム医療の現状、頭頸部癌、30(3):401-406,2004.
- 65.松浦一登,林 隆一,他 舌扁平上皮癌一次治療症例(274例)の手術治療成績、頭頸部癌、30(4):550-557,2004.
- 66.上條朋之,林 隆一,他 頸部食道がんの治療成績とその検討、頭頸部腫瘍、30(1):61-66,2004.
- 67.林 隆一,海老原 敏 ビデオシンポジウム 頸胸部領域における先端的外科手術 下咽頭がん 2004.
- 68.平野 滋. 下咽頭癌に対する喉頭温存術式の術後発声状況. 日気食 56:10-16.2005.
- 69.平野 滋 甲状腺癌頸部リンパ節転移症例の治療方針 - 郭清をどこまで行うか - 再発例からの検討. 耳鼻咽喉 76:615-9.2004.
- 70.平野 滋 Zeitels 型喉頭鏡を用いたラリンゴマイクローサージャー. 日気食 55:468-472,2004.
- 71.平野 滋 声帯癒痕治療の現状と可能性 - 再生医学的アプローチの可能性 - 喉頭 16:96-101,2004.
- 72.兵藤伊久夫,長谷川泰久【頭頸部癌の治療指針-私たちはこうしている-】下咽頭癌の治療 切除範囲と再建下咽頭部分切除・喉頭半切除. 耳鼻咽喉 76:15-519,2004.
- 73.小川徹也,長谷川泰久,他 甲状腺,耳下腺手術のクリニカルパスの意義. 耳鼻臨床. 97:555-561.2004.
- 74.寺田聡広,長谷川泰久,他 口腔癌患者の術後頸部感染の検討. 耳鼻と臨床. 50(補1):77-80.2004.
- 75.寺田聡広,長谷川泰久【手術範囲と術式】前壁型中咽頭癌. JOHNS. 20:1371-1374.2004.
- 76.長谷川泰久 下咽頭癌の外科治療. 口咽科. 16:229-236.2004.
- 77.長谷川泰久 頭頸部癌化学療法の進歩 頭頸部癌化学療法におけるテーラーメイド療法. JOHNS. 21:107-111.2005.
- 78.西條 茂 頸部郭清の範囲 下咽頭癌の場合 JOHNS 30(9)1417-1419,2004年
- 79.西條 茂 舌・口腔底癌の取り扱い 日本耳鼻咽喉科学会 専門医通信 7914-15 2004
- 80.西條 茂,浅田行紀,西川 仁,松浦一登,他 中咽頭癌の治療戦略 頭頸部癌30(3)423-427,2004
- 81.館田 勝,吉田文明,西條 茂,志賀清人,横山純吉 当科における上顎洞悪性腫瘍の臨床検討 頭頸部腫瘍30(1)8-11,2004.
- 82.館田 勝,吉田文明,西條 茂,志賀清人,松浦一登,西川 仁,浅田行紀 挙上皮弁の広頸筋と顎二腹筋の縫合による口腔底再建 頸部頭外科 14(3):215-220,2004
- 83.斎藤龍生 末期がん患者の症状緩和:呼吸困難への対応. 薬の知識,ライフサイエンス社:54:161-164,2003
- 84.本多敦彦,斎藤龍生,河原正明,他 肺癌の診断時における脳転移:肺癌:43,259-264,2003
- 85.斎藤龍生 緩和医療の現状と問題点 アルカロイド研究会会誌:30,25-30,2004.
- 86.志真泰夫 他 緩和医療の現状と展望. 現代医療. Vol.36.No6.2004;1168-1184.(株)現代医療社
- 87.村上敏史,志真泰夫 他 がん性疼痛治療薬:最近の動向. 看護技術. Vol50.No4;11-14,2004,メディカルフレンド社
- 88.志真泰夫 他 末期癌患者における消化管閉塞に伴う消化器症状に対する Octreotide Acetate の臨床試験. 癌と化学療法 31(9):1377-1382,2004
- 89.小原弘之,志真泰夫,本家好文 症状の緩和をどのように行うか・呼吸困難の薬物療法を中心に.ターミナルケア 14:287-292,2004.
- 90.宮内貴子,小原弘之,他 終末期がん患者の倦怠感に対するアロマセラピーの有効性の検討.がん看護 9;356-360,2004.
- 91.小原弘之,本家好文 実存的苦痛を訴えた進行期肺がんの一例.広島県立病院医誌(in press)
- 92.宮内貴子,小原弘之,他ホスピス・緩和ケア病棟におけるアロマセラピーの現状調査.がん看護 .(in press)
- 93.吉川栄省,内富庸介,他 リエゾン精神医療におけるうつ病;サイコオンコロジー. Clinical Neuroscience 22:173-175,2004.
- 94.秋月伸哉,内富庸介,他薬物療法. Depression Frontier 2:21-25,2004.
95. 秋月伸哉,内富庸介,他 がん患者の精神症状とその対応. 日本病院薬剤師会雑誌 40:521-523,2004.
- 96.秋月伸哉,内富庸介,他海外におけるサイコオンコロジーの現状. 臨床精神医学 33:489-493,2004.
- 97.小早川誠,内富庸介,他がん患者の心身ケア. からだの科学 238:104-107,2004.
- 98.神経画像を用いたサイコオンコロジーの展望. 最新精神医学 9:445-449,2004.

99. 清水研, 内富庸介, 他 緩和ケアチームの現状と将来. 総合臨床 53:2776-2779,2004.
100. 清水研, 内富庸介, 他 癌による症状への対策; 精神症状への対策. コンセンサス癌治療 3:193-197,2004.
101. 中野智仁, 内富庸介, 他 緩和ケアチームの現状と将来. 精神神経学雑誌 106:776-781,2004.
102. 藤森麻衣子, 内富庸介, 他 がん医療におけるコミュニケーションスキルトレーニング法. 臨床精神医学 33:533-557,2004.
103. 内富庸介 特集「がん患者のうつ病」にあたって. Depression Frontier 2:7,2004.
104. 内富庸介 日本における緩和ケアチームの今後の方向性; 精神科医の立場から. ターミナルケア 14:245-247
105. 内富庸介 サイコオンコロジーと緩和医学の現状と将来; シンポジウムによせて. 精神神経学雑誌 106:762-763,2004.
106. 明智龍男, 内富庸介, 他 がん患者の自殺・希死念慮へのアプローチ. 臨床精神医学 33:681-691,2004.
107. 明智龍男, 内富庸介, 他 進行・終末期がん患者に対する精神療法. 精神神経学雑誌 106:123-137,2004.
108. 明智龍男, 内富庸介, 他 緩和医療における精神症状への対応. 臨床消化器内科 19:59-66,2004.
109. 明智龍男, 内富庸介, 他 サイコオンコロジーの科学的基盤; 精神症状の緩和を目指して. 精神神経学雑誌 106:764-771,2004.
110. 明智龍男, 内富庸介, 他 がん患者のための包括的支援プログラムの開発. 心身医学 44:503-508(単行本) 2004.
111. 内富庸介 癌患者への精神的ケア(サイコオンコロジー). In: 疾患・症状別今日の治療と看護(改訂第2版); ナース・看護学生へ贈る専門医からのメッセージ. (Eds.) 水島裕, 黒川清. 南光堂 pp868-870,2004.
112. 田中桂子 緩和医療, 呼吸器ケア夏期増刊 症例シミュレーション 呼吸器疾患の治療と管理, 220-223 メディカ出版 2004.
113. 田中桂子 緩和医療におけるおもな症状に対するマネジメント(5) 呼吸困難, 特集 消化器癌の緩和医療, 臨床消化器内科, 19:47-52 日本メディカルセンター 2004.
114. 田中桂子 監修 / 著 がん患者の呼吸困難マネジメント ナーシングフォーカス・シリーズ 照林社 2004.
115. 田中桂子 痛みを治療する, がんの痛みをとる! 3:2-3, メディカルレビュー社 2004.
116. 田中桂子 呼吸困難は正しく評価されているか? 緩和医療がめざすもの, 治療学, 38:656 ライフサイエンス社 2004.
117. 田中桂子 呼吸困難のマネジメントの指針, ターミナルケア, 14:272-274, 青海社 2004.
118. 田中桂子 何をどのように評価するかー呼吸不全・呼吸困難のチェックポイントー, ターミナルケア, 14:265-271 青海社 2004.
119. 田中桂子 よくわかるがん患者の症状コントロール 総論 がん患者の症状コントロール, エキスパートナース, 21:98-103 照林社 2005.
120. 田中桂子 がん患者の症状緩和(疼痛・呼吸困難・倦怠感) 最新の知見, 日本胸部臨床, 64:1-11 克誠堂出版 2005.
121. 田中桂子 呼吸困難の診断と治療, 癌の臨床, 篠原出版新社 in press, 2005
122. 石川治, 今岡真義, 他 膵癌の標準術式とその選択 外科治療, 90(3):282-287, 2004
123. 大東弘明, 今岡真義, 他 動注化学療法 I - 膵癌: 28 - 35, 2004
124. 佐々木洋, 今岡真義, 他 肝癌破裂 消化器画像 6(2):193-202, 2004
125. 野田剛広, 今岡真義, 他 膵内分泌腫瘍の診断 日本臨床 62(5):907-913, 2004
126. 佐々木洋, 今岡真義, 他 肝癌・胆嚢癌・膵癌の標準手術 肝癌に対する標準手術 前区域切除術 外科治療, 90:178-185, 2004 増刊
127. 江口英利, 今岡真義, 他 後腹膜に発生した気管支嚢胞線癌の1例 日消外会誌, 37(5):584-589, 2004
128. 石川治, 今岡真義, 他 膵癌切除成績向上を目指した併用治療戦略 外科, 66(1):99-104, 2004
129. 山下幸紀, 長谷川壽彦 総合医学会報告 シンポジウム1: 病院機能評価の受審 医療 第58巻第12号, P671-672, 2004.
130. 内藤春彦, 山下幸紀 他 家族性大腸腺腫症の母親をもつ卵黄のう腫瘍の一例 小児がん 第41巻第4号, P859-864, 2004.
131. 滝一郎, 塚本直樹 外陰腫瘍, 腔腫瘍婦人科腫瘍の臨床病理, 2-34, 36-57 メジカルビュー社 2004.
132. 岡留雅夫, 斎藤俊章, 小川伸二 塚本直樹 当科で行っている子宮頸部上皮内腫瘍(CIN)に対するレーザー蒸散術・レーザー円錐切除術についての検討. 日本婦人科腫瘍学会雑誌, 22:267-271, 2004.
133. 塚本直樹 放射線療法後の瘻孔の修復術. 産婦人科の実際, 53:419-426, 2004.
134. 塚本直樹 子宮体癌の取扱い規約. 子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌の診断と治療-最新の研究動向-. 日本臨床 62巻増刊号10(通巻856号):285-289, 2004.
135. 鮫島伸一, 澤田俊夫 左半結腸切除, 手術 58(6):895-898, 2004.
136. 澤田俊夫 座談会「大腸sm癌内視鏡摘除の適応および摘除後の follow-up をめぐって」, 胃と腸 39(13):1773-1789, 2004.
137. 澤田俊夫 消化器内視鏡のトラブル防止マニュアル, 鈴木博昭監修, 幕内博康, 熊井浩一郎, 澤田俊夫, 峯徹哉, 藤盛孝博編集 日本メディカルセンター 2004.
138. 澤田俊夫 第2章「薬物投与・前処置」概説 (PP43-44)、第13章「大腸内視鏡 挿入」概説 (PP241-242)、第2章「大腸内視鏡 診断・治療」概説 (PP259-260)、消化器内視鏡のトラブル防止マニュアル, 鈴木博昭監修, 幕内博康, 熊井浩一郎, 澤田俊夫, 峯徹哉, 藤盛孝博編集 日本メディカルセンター 2004.
139. 澤田俊夫 第3章 大腸・小腸, 1大腸ポリプ・ポリポシス, 腫瘍内視鏡学, 長廻紘, 大井至, 坂本長逸, 星原芳雄編 医学書院 2004.
140. 鮫島伸一, 澤田俊夫 7. 肛門扁平上皮癌の現況, (1) 第59回大腸癌研究会アンケート集計から, 武藤徹一郎監修, 渡辺英伸, 杉原健一, 多田正大編, 大腸疾患 NOW2 005
141. 澤田俊夫 あすから「がん制圧月刊」早期なら9割治る - 効果高い禁煙 - 上毛新聞 2004.
142. 澤田俊夫 ドクターメール from 県立がんセンター「“がん”は遺伝子の病気 - 体内で日々続く戦い -」夕刊桐生タイムス 2004.
143. 澤田俊夫 視点「がんの予防(上) - 努力で危険性減らせる -」上毛新聞 2004.
144. 山中英壽 他 前立腺癌-早期発見とスクリーニング. 排尿障害プラクティス, 12:245-249, 2004.
145. 古賀寛史, 山中英壽 他 局所進行前立腺癌に対する内分分泌放射線併用療法におけるQOLの検討. 西日本泌尿器科, 66:255-262, 2004.
146. 山中英壽 他 高齢者前立腺がんへの対応. 日本老年

- 医学会雑誌、41:515-517
147. 山中英壽 前立腺がんスクリーニング考. Kitakanto Med J, 54:289-296,2004.
 148. 山中英壽 他 高齢者によくみられる疾患とその特徴 尿路系疾患. 日本内科学会雑誌、南江堂 93:2566-2571,2004.
 149. 山中英壽 PSA検診:がん検診計画ハンドブック、三木一正・渡邊能行(編) 南江堂 pp.162-164,2004.
 150. 山中英壽 現在の前立腺がん検診の問題点とこれからの検診計画:がん検診計画ハンドブック、三木一正・渡邊能行(編)、pp.168-170,2004.
 151. 土井隆一郎 膵臓癌の手術は新規約(第5版)でどう変わるか/新規約にもとづく Stage IVa 膵癌に対する治療. 胆と膵 24(12): 881-886, 2004.
 152. 河本泉, 土井隆一郎 膵消化管内分泌腫瘍・診断. 日本内科学会雑誌 93: 77-83, 2004.
 153. 土井隆一郎 膵癌 stage 分類からみた治療法の選択. 肝胆膵 48(1): 127-132, 2004
 154. 土井隆一郎 膵癌に対する拡大手術の意義と適応. 外科治療 90(3): 294-298, 2004.
 155. 土井隆一郎 膵頭十二指腸切除における膵空腸吻合. 手術 58(3): 352-356, 2004.
 156. 今村正之, 土井隆一郎 膵内分泌腫瘍の診断と治療. ガストリノーマの診断と治療. 日本消化器病学会雑誌 101 (4): 367-372, 2004.
 157. 川口義弥, 土井隆一郎 消化器外科医に必要な周術期輸液マニュアル. インスリン治療下糖尿病患者の周術期輸液管理. 消化器外科 27 (4): 437-442, 2004.
 158. 土井隆一郎 進行膵癌の治療 - 手術か, 保存療法か - . カレントセラピー 22(6):75-78, 2004.
 159. 土井隆一郎 手術で役立つ臨床局所解剖の知識. 膵頭十二指腸切除術に必要な局所解剖. 手術 58(10): 1621-1626, 2004
 160. 土井隆一郎 日常の見逃されやすい内分泌疾患 - 新しい診断法とその治療の update - . glucagonoma . 成人病と生活習慣病 34(9): 1265-1270, 2004.
 161. 土井隆一郎 肝胆膵領域における腫瘍性病変の画像と病理. 典型例の画像と病理. 膵腫瘍. グルカゴノーマの画像と病理. 肝胆膵 49(5): 687-692, 2004.
 162. 土井隆一郎 膵内分泌腫瘍. 消化器病診療. 良きインフォームド・コンセントに向けて(本). pp254-258, 日本消化器病学会(監修), 「消化器病診療」編集委員会(編). 医学書院. 2004.
 163. 河本泉, 土井隆一郎 膵内分泌腫瘍. オクトレオチド. 臨床に直結する内分泌・代謝疾患治療のエビデンス(ベッドサイドですぐに役立つリファレンスブック)(本). pp126-128, 阿部好文, 西川哲男(編). 文光堂. 2004.